

やまがた 幸せエピソード コンテスト

本県ならではの地域資源、暮らし方などの価値を見つめ直すきっかけづくりや機運の醸成を図るための取り組みとして、日々の生活の中で感じた「山形だからこそその幸せ」をテーマとする「やまがた幸せエピソードコンテスト」を実施しました。

各部門の受賞作品と受賞者のコメントをご紹介します。

エピソード部門



BEST AWARD

最優秀賞

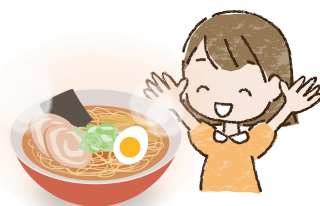
「お客様はラーメン」 いりこだし

私が子供の頃、午前中のお客さんが昼近くまでいらっしゃると、必ず出前でラーメンを取ってご馳走したものです。「もうこんな時間だ!お昼だから、帰るよ。」と、お客さんが帰ろうとすると母は「あら!今、ラーメン注文したから、食べてっけろ!」と言って引き止めたものでした。母は、私の分もラーメンを注文してくれるので、子供の頃の私は、午前中の来客があると「やったあ!ラーメンだあ!」と嬉しくて、お客さんの顔がラーメンに見えるようでした。

お客さんも、お寿司なら恐縮して遠慮してしまうかも

しれませんが、ラーメンなら断れない。スグ食べないと伸びてしまうので、注文されたら、遠慮せずご馳走になれるラーメン!山形県民のさり気ない気配りと、おもてなしの気持ち。ご馳走と言っても、飾り気のないシンプルな醤油ラーメン。山形市のラーメン支出額が1位、2位なもの、そのDNAからくるものなのかもしれません。

出前のラーメンは、山形のやさしさが詰まったご馳走です。



受賞者
コメント

家に来たお客さんに、出前で注文したラーメンをご馳走する習慣は「少しでも家に居てください」という山形の皆さんの優しい気持ちが伝わるエピソードです。山形県は「ラーメン県、そば王国」であり、かつての習慣を今の若い人たちにも知ってほしいと思います。

EXCELLENCE AWARD

優秀賞

「おいしいごはん」 さいぜん

ぼくはおばあちゃんが作ってくれるいもに大好きです。里いもがたくさん入っていて、いつもおかわりして食べます。でも、キノコは苦手なのでキノコだけぬいてもらっています。あと、おばあちゃんが作ってくれるだしも大好きです。キュウリやナスやオクラがシャキシャキして、とてもおいしいです。ぼくが「うまい!」と言って食べていると、この野菜はおじいちゃんの畑でとれた野菜だと教えてくれました。

おじいちゃんは野菜作りの名人です。畑ではキュウリやナスの他にもトマトやトウモロコシなどいろいろな野

菜を育てています。おじいちゃんの畑に手伝いに行った時、とてもたくさんの野菜がなっていたので楽しくなってたくさんとっていると、この畑のなえは天童のおじいちゃんの家からもらってきたものだと言われてくれました。

ぼくが食べるまでいろいろな人がつながって、まるでぼくのおなかのゴールを目指してリレーしているようでもしろいと思いました。そして、毎日おいしいごはんが食べられて幸せだと思いました。



受賞者
コメント

僕は小学4年生です。一緒に暮らしているおじいちゃんとおばあちゃんは、僕を幸せにしてくれる人です。山形は空気がきれいで、自然が豊かで、都会にはない良さがあります。ご飯がおいしいことも幸せなことだと思います。

「山形のよいとこ また来てござれ」 林 和子

猛暑の続いたある日、汗を流そうと近くの温泉施設へ車を走らせた。

目に入る月山の姿は、いつもながら、なだらかで美しい。テレビから聞こえてくる「もしも東京の真ん中に山があったなら、僕たちはもっと優しくなれるのかな」のCMをふと思い出す。

露天風呂も満喫し、帰路の途中、果樹園の道ばたで、桃や梨を買い求める。これぞ元祖無人の店だ。

夕方、ご近所さんから、家庭菜園で採れたきゅうりやトマトをどっさりいただく。このあたりは、素人農家が多いのだ。町内の老人クラブも、共同の畑を持っていて、ついこの間も、いも掘りに精を出したばかりだ。

夕ご飯は、いも煮、実家から届いた「だだちゃ豆」をつま

みに、地酒で晩酌。ほろ酔い気分になった頃、東京の友から電話が。他愛ない話の後に、「コロナがおさまったら、また山形に来てけろな」と言ってしまう、ひとりで苦笑い。これまで友と話す時は、山形弁など出なかったのに。若い頃、六年過ごした東京を「都落ち」のような思いで帰郷した私が、半世紀近くをへて、いつのまにか正真正銘の「山形のおなご」になっている。

さて美し酒も飲み干したことだし、今夜は、ぐっすり眠れそうだ。



受賞者 コメント

何でもない1日を日記風に綴ってみたら「なんて豊かな暮らしだろう」と感じました。ぜいたくではないけれど、心が満たされるような暮らしです。こうして年を取ると、人との交流に心を動かされることが多くなりました。さくらんぼを近所からもらうなど、山形は「お裾分け」「お福分け」の心が根付いている場所だと感じています。

「うまい!!山形の幸せ」 きゅうり大好き

「ピンポン」六月下旬の朝早く、玄関のチャイムが鳴りました。出てみると近所のKさんがレジ袋を下げて立っていました。挨拶すると、その袋を私に突き出すので、受け取って中を見てみたら、まっすぐに伸びつやつやした胡瓜が五本入っていました。

「あらら、胡瓜、なったのがあ?」

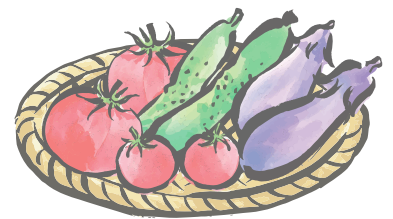
我が家でも家庭菜園で胡瓜を植えましたが、まだ採れるほど育ってはいません。Kさんは畑上手でいろんな野菜を作っています。毎年、初挽ぎの胡瓜を持ってきてくれるのです。

胡瓜はスーパーに行けば冬でも売っていますが、私は買いたいと思いません。作物は地物がいちばんおいしいと思うからです。初物の胡瓜はみずみずしく、とても柔くて、待ってましたとばかりにいただきました。洗って

味噌をつけてバリバリと味わいました。

我が家の胡瓜がなる頃は、夏も真っ盛りでサラダや漬物、だし、煮物などにして食べますが、それでも食べ切れずに持て余してしまうほどです。しかし、夏の暑さも和らぎ、秋の虫の音が聞こえる頃には、胡瓜もとれなくなり、生の胡瓜は食べられなくなるのです。

食材には「はしり」「旬(さかり)」「名残り」とあって、味わいが違います。地物の食材はそれぞれを身近に味わえる良さがあります。四季の移ろいを感じられる山形県に住んでいることは、本当に幸せなことだと心から思っ日々暮らしています。



受賞者 コメント

住んでいる地区では、昔から各家庭で育てた野菜を近所にお裾分けしています。Kさんが持ってきてくれる初挽ぎのきゅうりは毎年の楽しみです。野菜など地元の農作物が美味しく食べられるのは幸せなことだと思います。山形の素晴らしい風土や人々の温かさが作品を通して伝われば嬉しいです。

写真部門



BEST AWARD

最優秀賞

「やまがたの自然の魅力! 満喫プロジェクト」 山口 俊一



山形の「山」の魅力は世界一! 普段は、ガスがかかっているけど、信じて待てば、必ず、素敵な景色を私たちにを見せてくれる。子どもたちに、そんな魅力を伝えたくて、毎年、月山登山にチャレンジしています!

受賞者
コメント

イベントで月山を登った際、ガスがかかっているけど遠くまで見えなかったのですが、夕方に一瞬晴れて月山の雄大な姿を見ることができ、子どもたちとともに大喜びで撮った写真です。その時々で最高の表情を見せてくれる山形の自然の中で、子どもたちと時間を共有できるのは幸せなことです。

EXCELLENCE AWARD

優秀賞



「眼差し」 シンマサ

1歳2ヶ月になる娘と夫と初めての水族館に行きました。初めて見る沢山の生き物に興味津々な眼差し“あんなに小さかった娘がしっかり成長してるなあ”と

受賞者
コメント

クラゲの展示で有名な加茂水族館での写真です。初めての家族3人での旅行、初めての水族館。娘の表情1つ1つが宝物です。

「笑顔の秋」 杉山 正廣



元教員をしていた御主人。今は農家として悠々自適な生活をしているとのこと。秋の刈り入れで一服している。なにかの話で大笑いをし、話が弾んでいるのか、私も楽しくなりシャッターを切りました。

受賞者 コメント

稲刈りの向こうに鳥海山が見える風景が好きで秋になると写真を撮影しており、この地区の農家のご夫婦と仲良くなりました。ご夫婦が笑顔で過ごしている姿に幸せを感じます。

「未来へ繋ぐ! 庄内浜の魅力」 は一ちゃん



コロナの時期から始めた由良海岸でのキャンプ。今年で3年目になった。いつも子どもたちの笑顔で溢れる由良海岸。由良海岸から見る夕陽は、子どもたちの思い出の中にずっと輝き続けるだろう。

受賞者 コメント

中学3年生の夏にイベントで行ったキャンプでは、美味しい海の幸と由良の人たちの温かい人柄に囲まれて幸せでした。夕方には夕陽が美しくてさらに幸せな気持ちになり、みんなと笑顔で写真を撮りました。